

あわみなと通信

暮らしを支える港湾と空港の話

小松島みなとオアシス防災訓練

平成22年10月10日、船舶奉仕団による海上物資輸送訓練や小松島地区赤十字奉仕団による炊き出し訓練、地元民生委員や登録ボランティアによる要援護者安否確認訓練などが、小松島みなとオアシスにて行われました。設立したばかりの「小松島みなとまちづくり協議会」の主催で、関係機関、地域住民、地元高校生やボランティアグループなど約100名の協力で進められました。

平成21年度に行った「みなとオアシスの高度化による災害応急対応の補完に関する調査」（詳細はp3参照）をもとに、全国的にもまだ例の少ない“みなとオアシス”での防災訓練を試みました。

被災者に対する水の配給や食事の提供を想定して、小型船舶で海上輸送された救援物資をピジター桟橋から陸揚げし、周辺緑地や駐車場等のオープンスペースにて炊き出し訓練を実施。併せて、要援護者を実際に訪問して安否を確認する訓練や、AED(自動体外式除細動器)講習会の実施、建物の耐震診断の紹介や津波災害に関するパネル展示を行い、地震災害に対する市民への啓蒙活動を行いました。

今回の訓練により、小型船舶を利用した救援物資輸送や炊き出し等による支援・協働が、水道・電気の途絶えた地域の救援活動に有効であること、また、みなとオアシスとその周辺施設が有効な災害対応の地域資源であることを確認しました。今後、各地で“みなとオアシス”の付加価値が高められ、地域振興のみでなく、防災面でも地域に貢献できるものと思われま



訓練イメージ



開会式

INDEX

- 小松島みなとオアシス防災訓練・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 各種訓練の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 訓練成果と主要な意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 各地で行われている自主防災訓練情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

各種訓練の紹介

船舶奉仕団による海上物資輸送訓練

—日本赤十字社徳島県支部—

日本赤十字社徳島県支部の船舶奉仕団は、海と山に囲まれた徳島県の厳しい地形条件を考慮し、道路交通網が寸断された大災害時に海上から迅速に救援・救護活動を行うことを目的として、平成20年に結成されました。南海・東南海地震による被害の軽減を目的とした海上物資輸送訓練を毎年行っています。

陸上でのロープワーク等の結索訓練の後、船舶奉仕団員約15名と小型船舶4隻が救援物資の海上輸送を実施、無線通信を行いながら迅速に接岸し、物資等の陸揚げを行いました。常日頃から操船を行っている漁業関係者や地元のパレジャーボート所有者等により構成されるボランティア団体で、航行に習熟しており、みなとオアシスのビジター桟橋にもスムーズに接岸し、桟橋が被災せずに使用できれば災害時にも十分に力を発揮できることを確認しました。

今後も各地での実働的な訓練により、スキルアップを図る一方、他の奉仕団等との合同訓練により、災害時には相互の連携・協力体制を確立し、効果的な救援活動が期待されます。



小型船舶による救援物資等の海上輸送



救援物資等の荷揚げを行う船舶奉仕団員

炊き出し訓練

—小松島地区赤十字奉仕団・小松島市社会福祉協議会—

約30名のボランティアにより、200食分の「あめ湯」と「五目飯」の配給を行いました。炊き出し用の大鍋・ガスコンロ等は、「ミリカホール」（近隣の避難指定場所）に保管している小松島市の防災監理課が所有するものを借りて実施しました。あめ湯は徳島では昔ながらの手軽に作れ、体の温まる生姜味の飲み物です。五目飯はお湯を注いで30分程度おけば炊立て感の味わえるアルファ米という備蓄用の防災食品を使用しました。



あめ湯の炊き出し



五目飯の炊き出し

要援護者安否確認訓練

—小松島市介護福祉課・小松島高校・民生委員等—

地元の民生委員3名、登録ボランティア2名、小松島市職員3名、小松島高校生10名が、6班体制で近隣の要援護者宅を訪問しました。安否確認と共に防災訓練の説明、水・カンパン等の非常食の配給を行う一部の試験的な取組です。高校生ボランティアが要援護者宅で直接会話をして現状を知り、今後の地域防災に必要な課題等を考える良い機会になったと思われます。災害時要援護者支援マニュアルがホームページで公開されています。要援護者の避難支援が円滑に行えるよう日頃からの体制作りが重要です。



安否確認を終えたボランティアからの報告

AED講習会 —小松島市消防本部—

市民向けのAED講習会（所要時間約20分）を計3回実施しました。毎回40名程度の参加者を対象に、被災者に見立てた人形を使って、消防隊員が救助活動の初動動作からAEDの使い方、注意点などを分かりやすく説明しました。訓練に参加した地元住民やボランティアの方々も、AEDの名前は聞いたことがあっても実際に装置を見るのは初めてという人が多く、自動音声に従って操作できるのですが、まだまだその取り扱い方法等の認知度は低いようです。



AEDの使い方を教える消防隊員

	全体	海上物資輸送訓練 船舶奉仕団	炊き出し訓練 小松島地区赤十字奉仕団 小松島市社会福祉協議会	要援護者安否確認 小松島市介護福祉課 小松島高校、民生委員等	AED講習会 小松島市消防本部	その他
9:00	9:00 準備開始					
	9:20 開会式		9:30 訓練開始	9:30 参加者説明会		9:20 パネル展示 パンフレット配布
10:00		10:00 訓練開始	10:10 あめ湯配給	10:00 訪問開始	10:00 講習会①	
11:00					11:00 講習会②	
		11:30 訓練終了	11:30 五目御飯配給 11:40 訓練終了	11:30 訓練終了	11:40 講習会③	
12:00	12:00 閉会式					12:00 終了
13:00	13:00 反省会					

訓練成果と主要な意見

小型船舶を利用した海上物資輸送訓練や、地元ボランティアによる炊き出し訓練、防災教育としての高校生や地元住民へのAED講習会など“みなとオアシス”を舞台に連携した訓練が行えました。地域における自助・共助の取組を有機的に結びつける良いきっかけになったと思われます。特に行政の対応能力を超える大災害時には、自主的な地域での自助・共助の取組が重要な役割を果たすと言われてしています。

今回の訓練では、各団体の役割、ボランティアリーダーの重要性を再認識するとともに、試験的に取組んでみた要援護者の安否確認訓練では、行政を含め関係者間における情報共有等が課題として浮かび上がりました。現在、自主防災組織が無い本地域においても、訓練を通じて一部の関係者からは自主防災組織が必要との意見や、避難所の円滑な運営等のためにも調整役としての地域のリーダー、日頃からの住民コミュニケーションの養成が重要といった意見が述べられ、地域振興を主目的としてきた“みなとオアシス”の防災面での役割に対する期待を改めて感じたところです。

参考

「みなとオアシス」の高度化による災害応急対策の補完に関する調査

(平成21年度 財団法人ウォーターフロント開発協会実施)

港を利用した地元の自主的な災害応急対策には、日頃から施設や場所を使いこなしている地域に密着した運用主体が存在することが重要です。

“みなとオアシス”には、オープンスペースやトイレ・休憩所等、様々な災害時に転用の効く施設があるとともに、イベント運営等、人が集まる活動のノウハウに長けた運用主体が存在しており、そこに防災機能を組み入れることで、有事の際、災害応急対策を補完する仕組みが出来やすいと言えます。

そこで、みなとオアシスを常時の賑わい空間としてだけでなく、災害発生時の使い方等を含め、災害応急対策を補完するみなとオアシスの機能について検討してきたところです。

モデルケースとして、小松島みなとオアシスにおける周辺緑地等を含めた災害時の活用案を取りまとめました。



※検討会参加メンバー：NPO、日本赤十字社、社会福祉協議会、地元ヨットクラブ、漁協、行政機関等

各地で行われている自主防災訓練情報

● 鳴門 AED 体験（平成22年 2月 3日）

鳴門市の里浦小学校で防災訓練があり、里浦地区の住民約 120人が災害時の対処法を学びました。

日赤徳島県支部の職員が、けが人の搬送方法やAED（自動体外式除細動器）の使い方を手ほどきしました。参加者は、「足を頭より低くして運んで」などとアドバイスを受けながら、毛布で簡易担架を作って実際に搬送しました。津波を想定した避難訓練もあり、サイレンを聞いた住民が最寄りの高台へ避難しました。

訓練は、里浦町自主防災会連合会が毎年行っています。（徳島新聞 Web より抜粋）

● 小松島 立江自主防災会の防災訓練（平成22年 2月 28日）

立江自主防災会が地域住民に参加を呼びかけ、立江小学校にて防災訓練が行われました。難聴者の方やその支援者の方など、訓練には地域住民約200人が参加。炊き出し訓練や機器操作訓練など、いざという時のために非常食米の作り方や道具の使い方などを学びました。

この日は、前日に南米チリで発生した巨大地震の影響で、県内には津波警報が発令されており、参加者らは「いつ我が身に起こるともしれない」と真剣な表情で訓練に取り組んでいました。（広報こまつしま（No.671）より抜粋）



● 阿南 橘Wa nder 防災フェスタ（平成22年 9月 5日）

阿南市の「Jパワー&よんでんWa nderランド」にて、防災フェスタが行われ、地域住民の方々が防災について学びました。

阿南市や、日本赤十字社徳島県支部の協力の下、今後発生が懸念されている南海地震に備え、地域の防災に関する意識を高めることを目的に行われました。地元婦人会による 250 食分の炊き出し訓練や、起震車による地震体験など、楽しみながら防災について考えることが出来たようです。

お知らせ

緊急地震速報訓練（平成22年12月1日）

12月1日は 訓練の日
緊急地震速報の日
です!

全国で緊急地震速報の訓練が行われます
みなさんも訓練に参加しましょう!!

平成22年12月1日(水)
午前10時15分頃に、
全国の緊急地震速報の
受信端末に向けて
訓練用の緊急地震速報を
配信します。
端末をお持ちの方は、
端末を使って訓練してみましょう。
お持ちでない方も訓練できます。

国土交通省
気象庁

平成22年12月1日
緊急地震速報訓練

緊急地震速報を適切に利用するためには、訓練が大切です。

どうやって訓練をしたらいいのでしょうか?

- 緊急地震速報の受信端末を持っている人は?
▶ 訓練当日の午前10時15分頃に配信される訓練用の緊急地震速報で、端末が
鳴動するのを耳で聞いて、訓練してみましょう。
- 受信端末を持っていない人は?
▶ 気象庁では、ホームページで「緊急地震速報受信時対応訓練用キット」を
提供していますので、これを使って訓練してみましょう。
▶ 緊急地震速報を見聞きしたことを想定して、行動してみてもよいでしょう。

どんな訓練をしたらいいのでしょうか?

- ▶ 大声で周りの人たちに知らせましょう。
- ▶ 丈夫な机の下など、手近で安全な場所に避難しましょう。
- ▶ 無理に火を消したり、家の外に出ようとしては、かえって危険です。

あわせて、普段から家具の耐震固定などの
地震対策をおこなうことも大切です。

ご注意
訓練用の緊急地震速報はテレビや携帯電話には流れません。
緊急地震速報が配信している事業者によっては、訓練用の
緊急地震速報を配信しない場合があります。その場合、端末は
動作しません。訓練の際の端末の動作や、訓練用の緊急
地震速報配信の言葉については、契約の事業者にご確認
ください。
「緊急地震速報受信時対応訓練用キット」や訓練の詳細に
ついては、以下の気象庁ホームページをご覧ください。

気象庁 緊急地震速報のホームページ
<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tq/EEW/taisetsu/index.html>

発行：小松島みなとまちづくり協議会

（平成22年度事務局：国土交通省 四国地方整備局 小松島港湾・空港整備事務所 TEL:0885-32-3357）